

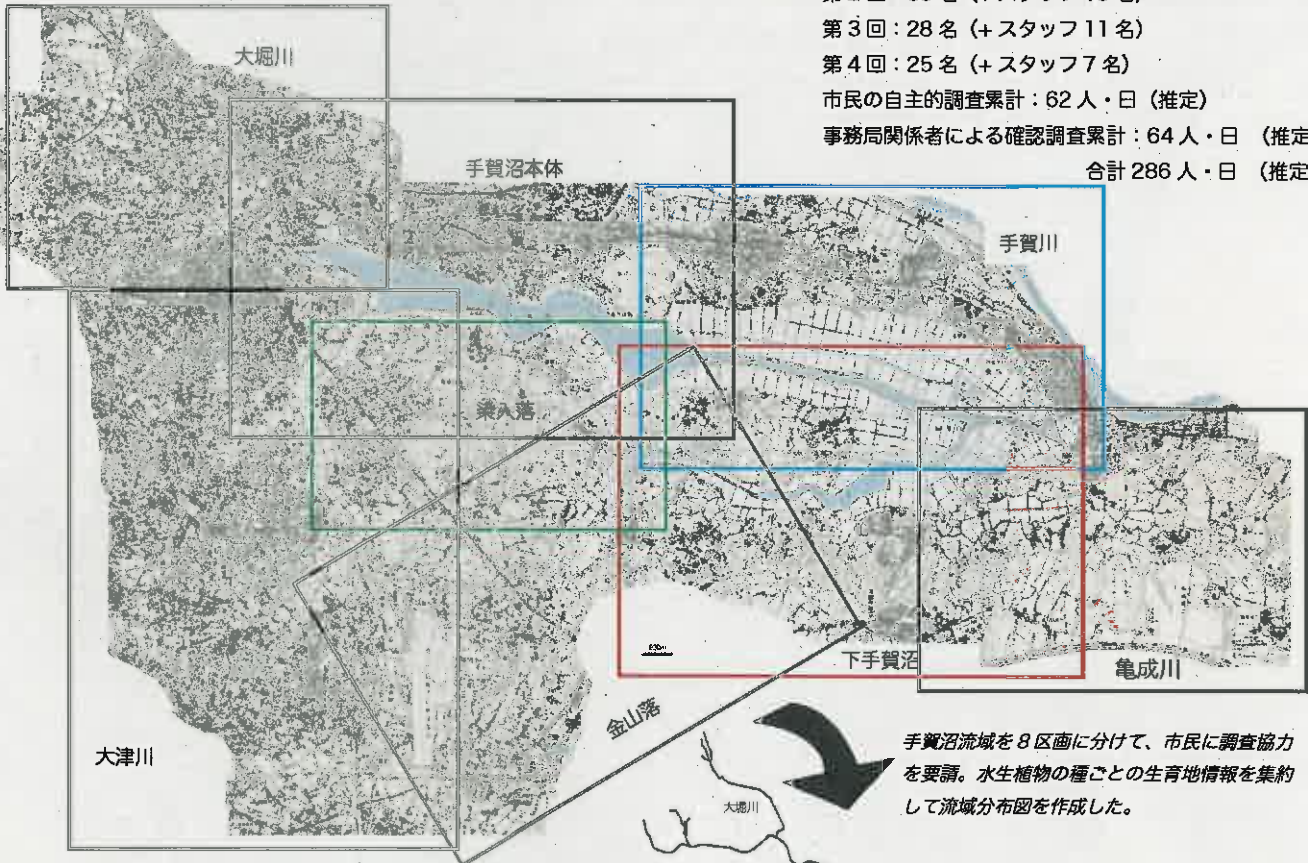
手賀沼ガシヤモク通信

No. 3

2007 (平成 19) 年度に手賀沼水環境保全協議会と千葉県立中央博物館の共催事業として実施した「手賀沼水草探検隊」では、手賀沼流域内の水生植物の繁茂状況を把握し、水生植物分布地図の作成を目指した。4 回の「手賀沼水草探検隊」を実施し、第市民への調査協力を呼びかけ、自宅周辺等での

調査報告を博物館にて情報集約した。調査参加のべ人数は推計で以下のとおり 286 人日にのぼる。市民の調査人数は正確に把握できないため実際には 300 人日を超える可能性もある。

- 第 1 回：41 名 (+ スタッフ 12 名)
- 第 2 回：33 名 (+ スタッフ 13 名)
- 第 3 回：28 名 (+ スタッフ 11 名)
- 第 4 回：25 名 (+ スタッフ 7 名)
- 市民の自主的調査累計：62 人・日 (推定)
- 事務局関係者による確認調査累計：64 人・日 (推定)
- 合計 286 人・日 (推定)



手賀沼流域を 8 区画に分けて、市民に調査協力を要請。水生植物の種ごとの生育地情報を集約して流域分布図を作成した。



手賀沼流域地図 線画
この地図に生育地を個別に記入した。

2007 年度末までにデータ集約・分布図作成が完了したのは以下に示す 21 種：ハゴロモモ、マツモ、イトモ、ツツイトモ、ヤナギモ、エビモ、ホザキノフサモ、ササバモ、ヒシ、キクモ、ミクリ類、コウホネ、ヨシ、マコモ、ヒメガマ、ハス、オオフサモ、ナガエルツノゲイトウ、コカナダモ、オオカナダモ、ホテイアオイ。

ミクリについては、ミクリ・ナガエミクリ・ヤマトミクリ・ヒメミクリの 4 種、オオミクリ (アズマミクリ) やカドハリミクリなどの種内分類群 (変種) を識別できていないためミクリ類として扱った。(2008 年度の花期に再調査して確認予定)

コウホネについては、全て人為栽培状態であり、手賀沼流域内に自生していた株を移植・保護したものなのか、園芸種を入手して栽培しているものなのか未確認。(園芸種の自然水域への移植は、手賀沼産コウホネの遺伝的多様性に重大な影響を及ぼす影響が憂慮されるため望ましくない。)

他にも、ホシクサ、マツバイ、ガマ、ショウブ、デンジソウ、アオウキクサ、サンショウモ、イチヨウウキゴケ、オランダガラシなど 28 種の情報が集まった。

これらの種に関しては、休耕田などでの生育情報は流域を同じ精度で網羅的に把握した訳ではないため、地図情報の掲載は現時点では見送ることとした。これらの種のとりまとめは今後の課題である。

水生植物地図
(情報集約済み 19 種)
2008.3.28 時点

手賀沼本体・下手賀沼・手賀川の3カ所は、面積が広いので、ヨシ・マコモなどの繁茂域を面として地図に反映させた。他地点は、生育地情報を丸印として記載した。ただし、流路に隙間なく繁茂している場合にはベタ塗り(■)、生育場所がほぼ連続している場合には丸印連続(●●●)として表記した。後者の各丸印は必ずしも厳密な生育地点を意味しないことに留意が必要である。

凡例の色が類似しているため種の識別が難しいこと、印が地図上で複数重なってしまい地点情報が正確に読み取れない部分があることなど、一枚の地図に情報を掲載することには無理がある。詳細データの公表に際しては、種別の分布地図とすることで対応予定。それでも一枚の地図上に情報集約することで、各支流の様子が見て取れ興味深い。

これらの情報を地理情報システム(GIS: Geographic Information System)に入力して流域各地点の周辺環境情報などと有機的に結びつけた解析を実施することも目論んでいる。

本調査にて得られた流域情報を元に、2008(平成20)年度には流域内の学校や市民に里親となってもらい増殖させた手賀沼起源のガシャモクなど沈水植物の移植候補地を選定する作業を進める。さらに、2009(平成21)年度には水生植物の移植事業を実際に始動する予定。



ミクリ類およびコウホネの2種は、手賀沼流域内では貴重種であり、業者などによる乱獲被害を防ぐため、本資料では生育地情報を非公開とした。

- | | |
|-----------|-----------------------|
| ● ツツイトモ | ● ヒシ |
| ○ イトモ | ● ホテイアオイ (要注意外来生物) |
| ● キクモ | ● コカナダモ (要注意外来生物) |
| ● ハス | ● オオカナダモ (要注意外来生物) |
| ● ヒメガマ | ● ハゴロモモ (要注意外来生物) |
| ● マコモ | ● オオフサモ (特定外来生物) |
| ● ヨシ | ● ナガエツルノゲイトウ (特定外来生物) |
| ● ササバモ | |
| ● ホザキノフサモ | |
| ● エビモ | |

☆ 水生植物移植候補地を探して

「手賀沼水草探検隊」を通じた流域調査で、流域内の水生植物移植候補地情報もいくつか寄せられた。

流域内で最も水生生物の豊かな亀成川では河川工事が進行中で、直線の単純な構造に改変された姿は、環境が回復するまでしばらくは移植には不相当と見られる。しかし、工事による攪乱で、既存の生態系の調和が崩れた為にかえって移植株の生残性が高まる可能性もある。亀成川支流の和泉川も改修工事中で状況は同様。工事がほぼ終了した亀成川支流の浦部川はマコモなどが復活しており、移植候補地として可能性あり。



2008.3.1 印西市和泉



2008.3.1 印西市大森



2008.3.1 印西市大森



2008.3.2
柏市逆井

流域内で移植候補地が複数見つかったのは、大津川流域。河川改修が終了し時間が経過した場所（柏市逆井地区）や河川改修前の場所（柏市逆井地区、鎌ヶ谷市佐津間地区など）が市民により提案された。



2008.3.2
鎌ヶ谷市佐津間



2008.3.2
柏市逆井

この「手賀沼ガシャモク通信」は、「手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会」の会報「手賀沼マシジミ・ガシャモクだより」53号および「2007年「手賀沼水草探検隊」水生植物繁殖地とりまとめ」から記事を一部抜粋・加筆して編集しています。

手賀沼ガシャモク通信 No. 3

平成 20 年 4 月 10 日発行

手賀沼水環境保全協議会

事務局

〒 260-8667 千葉市中央区市場町 1-1 千葉県環境生活部水質保全課湖沼浄化対策室

電話：043-223-3821 E-mail：suiho5@mz.pref.chiba.lg.jp